

◆ミニ研究会・共同企画 2011★横浜トリエンナーレ(活動記録+評価集計結果)◆

企 画■未来を拓く萌芽を探る(1) ～横浜の創造都市戦略を歩く～

(都市と住宅を考える会+teku-teku 共同企画)

日 時■2011年 9月25日(日) 10:30～17:00

コース■黄金町バザール(説明、見学、昼食)－(連絡バス)－横浜美術館(トリエンナーレ 2011 主会場)
～ BankART studio NYK (同・主会場) ～新港ピア/新・港村(説明、見学、ディスカッション)

参加者■◎小松崎隆+佐々木龍郎(コーディネイター)

青木伊知郎、青木理恵、大竹 亮、小川美由紀、加藤仁美*、呉祐一郎、鈴木平和、恒川磯雄、
重永真理子、中島睦之、二瓶正史、東濃 誠、藤井祥子、古里 実、水谷晴子、山岡 靖* ほか
(以上19名、敬称略、*黄金町のみ参加)

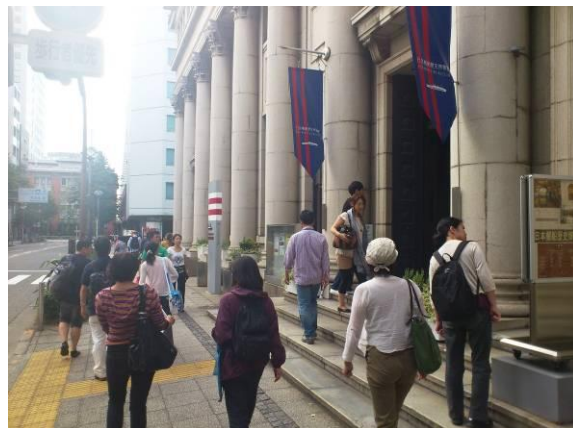
企画主旨■

横浜では、「創造都市戦略」として、アートをまちづくりに採り入れることにより、停滞地域の活性化を目指しています。港湾地域の使われなくなった倉庫群の活用に取り組み、都心業務地区の歴史的景観保全と合わせた近代建築の再生、商店街の活性化と防犯まちづくり、簡易宿泊所街の環境改善と外国人旅行者の誘致など、その取り組みはさまざまです。

今回、当会会員の小松崎隆さん(横浜市副市長)にヨコハマトリエンナーレ 2011 (8/6-11/6) の視察ツアーを企画していただきました。今回主会場の「横浜国立美術館」と「BankART studio NYK」に加え、連携企画の「黄金町バザール」と「新・港村」を巡りながら、単なるハコモノ展覧会とは異なる都市とアートの新しい関係を、陸から海までつながる横浜の港湾地域の現在も含めて、体感していただきたいと思います。



黄金町・小串スタジオで防犯まちづくりの話进行



会場間を移動し、海岸通・日本郵船ビルの前を行く

<参加レポート>

秋晴れの気持ち良い気候の中、当会会員小松崎氏、佐々木氏の案内のもと、約20人のメンバーとともに今年3回目を迎える横浜トリエンナーレの都市とアート展示を巡るツアーに参加しました。

集合場所は黄金町。神奈川県で高校時代を過ごした身にとっては高校生が近くところではなかった地区ですが、今回、アートでどのように変わってきたのか楽しみに、集合場所の「大かいだん」に向かいました。高低差のない街の大階段は京急線のガード下にあり、絶妙な空間を作り出していました。皆で少し歩いて小串スタジオへ。横浜市役所の方や総合プロデューサーの河本一満氏を交えて黄金町プロジェクトのお話を伺ったのち、地区内を散策。おりしも東北支援のさんまパーティを行っており、焼きたてのサンマに舌鼓を打って各自で横浜美術館へ。

その後、日本郵船海岸通倉庫(BankART studio NYK)を経て、佐々木氏も関わっている BankART life Ⅲ(新・港村)へ。ここでも、村長のお話を伺って数多くの展示作品を見学しました。

若干、駆け足気味ではありましたが、パスポートは横浜美術館以外では会期中有効とのこと、何度も足を運びたくなりました。都市とアートのコラボレーションについては、研究会でも白熱した議論が行われたテーマにつながりました。

(記録: 藤井祥子)

※本レポートは、TMU都市と住宅を考える会会報144号から転載したものです。

<参加者の意見・評価>

1◆横浜トリエンナーレ全体

評価:4.00 内訳:AAAABBBB

A:現代美術という、必ずしも日本で人気のある分野ではない美術分野の国際展を継続的に開催していることに敬意を表します。

A:都市全体が博覧会会場というコンセプトは、とてもいいです。歩き疲れるので、銀座のような自転車タクシーなどの併用が必要ではないでしょうか。

A:担い手の広がりを感じました。

A~B:個々の企画はそれぞれ楽しみました。一緒の人にとってのアピール力もあったと思います。

B:現代アートの大掛かりな展覧会(祭典?)が10年(4回)続いていることが素晴らしいと思います。横浜美術館前の工事仮囲いにステッカーを貼るアートなど参加型の企画があるのも楽しくて良いです。

B:横浜全体が祝祭的で、シャトルバスやポスター、サインなども評価できます。

B:前は演劇をやっていたのですが、今回はそれが見られなくて残念でした。

B:今までは、普段使われていない海岸部の倉庫などが会場で、いつもと違う体験ができる意外性や革新性があったが、今回はMM21の横浜美術館が主会場ということで、日常性や体制側に取り込まれた感じがする。催しとして定着し、多くの人に来てもらうためには、それもいいのかもしれないが・・・黄金町や新・港村の大胆な試みに救われました。

2◆黄金町バザール

評価:4.50 内訳:AAAAAABB

A:以前から断片的に知っていましたが、こんなに目に見えて成果がでているとは思いませんでした。

A:細部ではいろいろと言われてはいるものの、現代美術(&建築)と地域再生を結びつけた大胆な事例として評価できると思います。

A:とにかく市と住民、大学、学生の意気込みがすばらしいです。商店街の若手が主導権を握れているか、がわかりませんでした。

A:商店街の再生にこのような方法があったのかと驚かされます。「防犯×アート=まちづくり」が効果をもたらしています。京急高架下のスタジオ活用もいいし、小さな店舗のアトリエ転用も面白いです。アートのスペースが身近で、日常の延長として親しみやすいです。(大階段での気仙沼のサンマも美味しかった!) しかしながら、市が財政投入で支えている現状から、市場で回る仕組みへと転換しないと、長続きできないでしょう。

A:地元企画がよかった。

A:つつい買物してしまった。路地の奥のアトリエなどミステリアス。

B:意欲的で面白い企画だと思いました。

B:街の浄化にアートを用いるという試みや、地元の方とそこで活動するアーティストとのコミュニティは素晴らしいと思います。また、NPO、行政、警察の方々の熱心な取り組みには敬意を表します。ただ、年間1億円を超える補助金が必要な現状と、アーティストの経済的自立が可能なのかどうかを考えると、将来が不安な気もします。黄金町のアートは、親しみやすく楽しいものが多かったのも、普段からたくさんの人に来てもらえるようになると良いなと願っています。



空き店舗を活用した小さなアートスペース



京急高架下を利用した黄金スタジオ

3◆横浜美術館の企画・展示

評価:1.83 内訳:ABCCCー

A:会場も内容もよかったと思います。せっかく横浜でやるなら、ここを中心の一つにすべきでしょう。

B:斬新な展示が良かったです。

C:立派な美術館が会場になったことにより、横浜トリエンナーレの牙が抜かれ、毒のないものになってしまったような気がします。メインロビーで注目を集めていたオノ・ヨーコの作品も、古い素材の再編にすぎないようですし・・・。

C:ほとんど印象にない。アンデパンダン展などとの違いが分からなかったです。

C:キュレータの見せ方の意図は理解できましたが、なんとなく散漫な感じです。

ー:時間が無くて館内の展示は見ませんでしたが、横浜のアートの中心である横浜美術館がトリエンナーレの会場となったのは良いことだと思います。

ー:駆け足で通り抜け、印象が思い出せません。



横浜美術館メインロビーの大空間



多くの人々が訪れた横浜美術館の内部展示室

4◆日本郵船海岸通倉庫 (Bankart studio NYK) の企画・展示

評価:4.00 内訳:AAABBBー

A:会場の立地条件や建物を活かした作品が多かった。単なる展示でなく、触ったり選んだりする相互作用があるのがいい。暗く広い館内を一巡した後、カフェでお茶を飲んだり、岸壁で風に吹かれたりするのも快い。

A:NYKの倉庫そのものが魅力的でした。

A:「これぞ」という展示が多く、楽しめた。

B:アートとして楽しめました。卵の文字や、からしの上の文字のピースを自由に組み替えられるなどの、触れるアートがあるのも良かったです。

B:週末のせいだったのですが、会場に入ってからすぐの行列はいただけませんでした。

B:会場と作品はマッチしていると思った。深く感じるには時間がなかった。

ー:倉庫を改造したような建物の中での展示ですね。本格的なインスタレーションなので好感が持てました。映像、演劇、講演会などの組み合わせがあると、もっと魅力的です。



日本郵船海岸通倉庫 (Bankart studio NYK) 内部



鑑賞者が卵を選んで手に取る不思議なアート

5◆新・港村 (Bankart life Ⅲ～小さな未来都市～) の企画・展示 評価:3.57 内訳:AAABBBBC

A:非常に面白かったです。会場全体が一つの街のようであり、かつ企画が相互連携しているようで、「村」というネーミングも理解できます。ゾーン別に空間の性格が異なり、郵便局やカフェ、食堂、ショップもあり、一番奥が海に見える広場になっていました（お酒も飲める！）。未来都市というよりも、子供の絵本の中の（あるいは夢の中の）街のような不思議な体験でした。

A:仮設的が空間構成にあったしつらえがいいです。1年後の自分への手紙企画に参加してみました（自宅に手紙が着きました）。未来志向ものを増やすといいのでは。

A:場所の利用がうまいと思いました。

B:学園祭のような、卒業設計ブースのような、懐かしく、戻りたくても戻れない『時』にタイムスリップしました。

B:展示自体は学園祭的で、まあそれがいいのかなという感じですが、参加者の連帯感や地域のコミュニティを強く感じました。

B:いろいろなものがありましたが、展示の向いている方向がよくつかめませんでした。

C:ちょっと盛り込みすぎなのか、アートなのか見本市なのか良くわかりませんでした。



新・港村／ゾーンBの未来郵便局



新・港村／ゾーンDの自由広場と書店

6◆横浜の創造都市政策は、うまくいっていると思いますか。また、今後どのようにしたらいいと思いますか。

●「衰退地域の再生・活性化」という目的に対しては、一時的に効果をもたらしていると思います。今後は、それを市場で回るようにして持続性をもたせること、再生が必要な他の地区にも広げていくことが望めます。これによって、文化創造が産業となり、街の個性として定着していくでしょう。

●課題はありつつも、うまく進んでいると思います。

●努力と蓄積の成果が出ていると感じられました。横浜という場所性とスケール感が、わかりやすい結果を生んでいると思う。

●よくわからない。まずはトリエンナーレが市民の多くに文字通り認知されることが必要です。

●すみません。政策については良くわかりません。

●うまくいっているかどうか（都市再生政策として有効かどうか）は、まだ回答が出ていないように思います。

黄金町のような成功例もある一方、創造産業の振興は困難に見えます。今後に向けては「継続」だと思います。



黄金町バザールの京急高架下大階段



新・港村／ゾーンCの仮設劇場

7◆今回の企画についての感想など

- 関係者に案内していただき、内容の濃い視察になっていました。最近の横浜に関しては無知でしたので、大変勉強になりました。(Ni・M)
- トリエンナーレという機会に、それに参加している黄金町バザールと、政策としての街の取り組みとを同時に知ることが出来て、とても貴重な機会を与えていただいたことに感謝します。どちらか一方だけを見聞きたら、違う印象だったかも知れません。まだまだ道のりは険しいでしょうが、頑張っていたいだきたいと思います。なかなか同じような（アートを取り入れた街の活性化）ことは出来ないでしょうが、何かのヒントになりそうな気がしました。さんまも餃子も美味しかったです。ありがとうございました。(Na・M)
- 黄金町の再開発問題も含め、盛りだくさんでしたが、集合を早めて見学時間を長く取った方がよかったです。(Ts・I)
- 余談ですが、黄金町でタイ製のバッグ（大きめショルダー、ブルーシートの素材）を買いました。雨OK、資料たくさんOK、お土産買ってもOK、上着、傘も。まちあるきに最適ですが、相当『ド派手』らしく、服装とのマッチングを息子から厳しく注意されました・・・。(Sh・M)
- 行政側の解説が付いたことで、全体像が理解し易かったのではないのでしょうか。創造界隈への「参加アーティスト」として佐々木さん及び副市長・小松崎さんによる当日の（あるいはこれまでの実践の）総括を耳にしたかったように思います。企画／実施の皆様、お疲れさまでした。(Og・M)
- 小松崎さん、ご案内ありがとうございました。(Ya・Y)
- 庶民的なまちの浄化に取り組む黄金町から、超高層ビル街にあるピカピカの横浜美術館へ、その落差についていけませんでした。薄暗い倉庫の中を探検するようなBankARTから、形にならない多彩な試みが雑居した新・港村に至り、感覚を回復しました。と同時に、横浜のアートまちづくりの多様な展開を実感しました。黄金町のサンマに始まり、BankARTのカフェを経て、新・港村のビールに終わる美味しいツアーでもありました。小松崎さん、佐々木さん、ありがとうございました！(Ot・R)



黄金町で気仙沼のサンマを賞味する



MM21の横浜美術館でトリエンナーレを観て